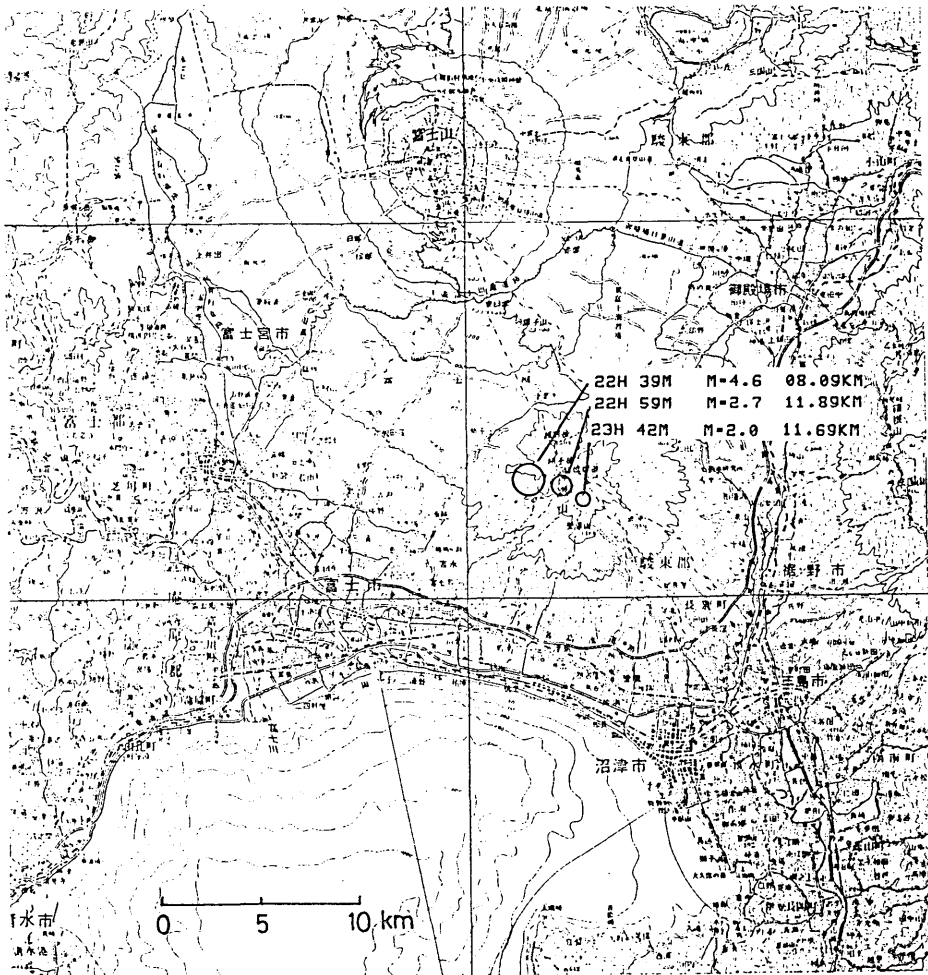


1983年4月29日の富士山南麓の地震について*

国立防災科学技術センター

1983年4月29日22時39分、富士山南麓の愛鷹山付近の直下にM=4.6の浅発地震が発生した。
(35.218°N , 138.784°E , $H=8.1\text{km}$)。この地震の20分後および約1時間後に2つの余震が観測され、それらの震央位置は第1図に示すごとくであった。



第1図 1983年4月29日富士山南麓に発生した地震の震央位置

Fig.1 Epicentral positions of the earthquakes at the southern foot of Mt. Fuji, April 29, 1983.

* Received June 20, 1983.

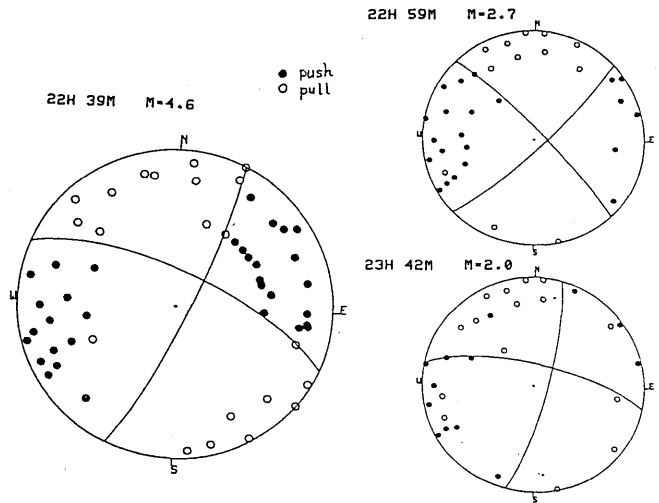
第2図は、本震および余震の発震機構を求めたものである。本震は北北西-南南東の主圧力によるほぼ垂直な横ずれ断層を示しているが、南北に近い節面は駿河トラフの軸方向と一致し、一方、東西に近い節面は余震分布の走向に一致している。2つの余震のメカニズムは本震とほぼ同じであるが、主圧力軸は $10\sim 20^\circ$ 回転しているようである。

この付近での最近の地震活動の推移を見るため、第3図に1983年1月～3月の3ヶ月間および4月の1ヶ月間の震央分布図を示した。ここで特筆すべき事項は次の2点である。

(1) 駿河湾周辺では、この富士山南麓の地震のほかに、4月8日3時の $M=3.9$ を含む一連の群発地震活動が駿河湾南部で発生している。

(2) 神奈川・静岡県境の箱根火山付近は3月まで静穏であったが、この富士山南麓の地震の5日前の4月24日11時、および5時間前の29日17時に微小地震の発生があった。

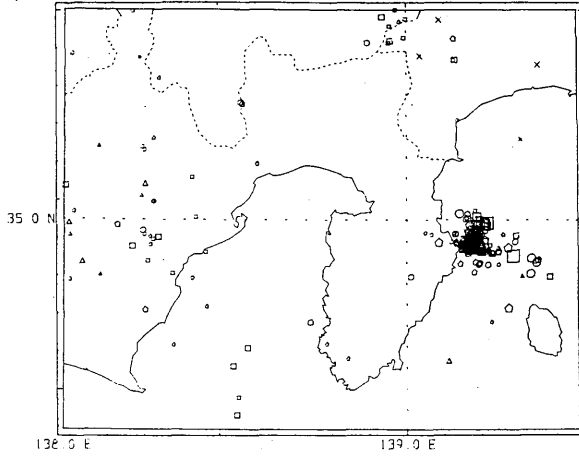
さらに長期間のこの地域の地震活動の様子を見るため、第4図に1926～1979年(気象庁のデータによる)、および1980～1982年(防災センターのデータによる)の震央分布を示した。この図によると、星印で示した今回の地震の発生地域は元来地震活動の低調なところではあるが、特に珍しい場所というわけではないことが解る。



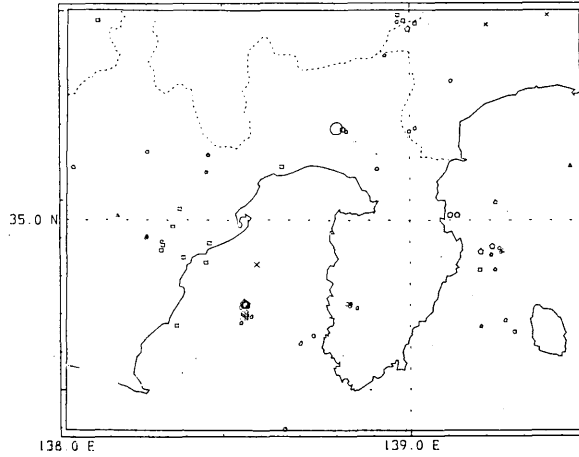
第2図 本震および余震の発震機構(下半球等積投影)

Fig.2 Source mechanism of the earthquakes at the southern foot of Mt. Fuji, April 29, 1983. (lower hemisphere).

1983 01 01 ~ 1983 03 31 N_{plot} = 358

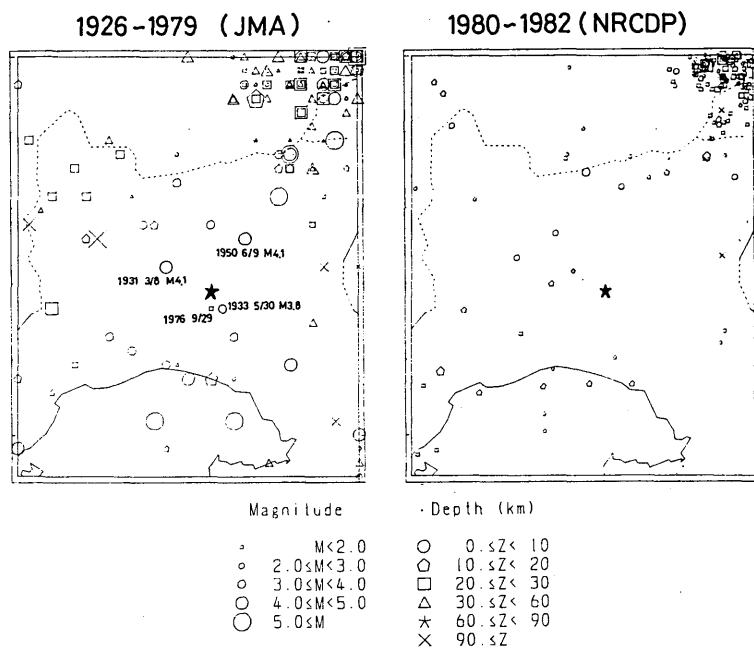


1983 04 01 ~ 1983 04 30 N_{plot} =



第3図 1983年1～3月, ならびに4月の駿河湾周辺における地震活動

Fig.3 Seismic activities around the Suruga Bay during Jan. to Mar., 1983 and in Apr., 1983.



第4図 1926～1979年，ならびに1980～1982年の富士山南麓部における地震活動。星印は今回の地震の発生場所を示す。

Fig.4 Seismic activities at the southern foot region of Mt. Fuji in the periods of 1926-1979 and 1980-1982. A star mark denotes the position of the present event.